

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2022

課題番号：21K20175

研究課題名（和文）親子間の支援関係と社会的不平等・格差の連鎖に関する総合的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Research on Intergenerational Support and Cumulative Inequality

研究代表者

侯野 美咲（Matano, Misaki）

東京大学・社会科学研究所・特任助教

研究者番号：00908345

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、祖父母・親・子の三世代での支援の授受によって、子のライフコースにおける社会的格差・不平等がいかに関与するかを大規模縦断データの計量分析によって検討した。その結果、以下の2点が明らかになった。第1に、「親から支援を受けられるか否か」「親に支援をしているか否か」という親子関係のあり方によって、結婚や出産などのライフイベントの経験の機会に格差が存在する。第2に、祖父母からの経済的支援があると、親は子へより多く教育投資をする傾向にあるが、この傾向は親の世帯収入が高い層で顕著である。つまり、祖父母からの支援によって子どもの教育機会の不平等が助長される可能性がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、人々のライフコースにおける社会的不平等・格差がいかに関与するかを親子関係という経路に着目して実証的に検討した。これまで家族社会学の領域で展開されてきた親子関係研究と社会階層研究を架橋して新たな知見を得たことで、両分野のさらなる発展に寄与することができた。また本研究は、不平等がどのような側面での程度生じているかということにとどまらず、なぜそのような不平等が生じるのかというメカニズムの解明に踏み込んでいる。この点から日本社会における不平等の是正のための策を講じる一助となることが期待される。

研究成果の概要（英文）：This study examined how intergenerational support in three generations shapes social inequality in the child's life course through a quantitative analysis of large longitudinal data. The results revealed the following two points. First, there are inequalities in the opportunities to experience life events such as marriage and childbirth depending on the parent-child relationship: whether or not a child receives support from his/her parents, and whether or not he/she provides support to his/her parents. Second, parents tend to invest more in their children's education when they have financial support from grandparents, and this tendency is more pronounced among parents with higher socioeconomic status. In other words, grandparental support may contribute to inequality in children's educational opportunities.

研究分野：社会階層論

キーワード：社会的不平等 格差 親子関係 世代間支援

1. 研究開始当初の背景

近年、社会的な不平等・格差に関する研究では、格差の連鎖過程に関する研究が蓄積されている (Ferraro and Shippee 2009; 石田 2017)。格差の連鎖とは、ある時点における格差・不平等が、その後の時点の格差・不平等に連鎖し、有利/不利な立場が累積することを意味する。すなわち、もともと有利な立場にある人はその後もさまざまなライフチャンスに恵まれる一方、もともと不利な立場にある人はその後も一貫して不利な状況から挽回することが難しい。

この点について、欧米諸国では、親子間での経済的・実践的・情緒的支援の授受が格差・不平等を持続させる重要な要因になっていることが明らかにされている (Swartz 2008)。上位の階層出身者は多くの資源を親から提供されることでより多くの機会に恵まれるのに対し、相対的に低い階層出身者は、そのような支援を望めず限られた機会しか得られない。

日本では、ライフコースの流れのなかで格差の連鎖が生じていることは明らかにされているものの (石田 2017)、親子間の支援の授受がいかに格差の連鎖に寄与しているかについては検証されていない。そこで本研究では、現代日本において、親子間の支援の授受がライフコースにおける格差の連鎖を促す要因となっているかどうかを明らかにする。

2. 研究の目的

本研究の目的は、個人のライフコースにおける社会的な不平等・格差の連鎖メカニズムを、3世代の親子関係に着目して明らかにすることにある。近年の研究では、格差の連鎖における家族関係の役割について検討するとき、親と子の2世代のみに着目することで、不平等の程度やその伝達における家族の役割を過小評価してしまう可能性が指摘されている (Gilligan et al. 2018)。なぜなら、長寿化にともない、人々のライフコースのなかで親子だけでなく祖父母も含めた複数世代の関わりが増加するなかで、子世代は、親世代からの影響だけではなく祖父母世代からの直接的・間接的な影響も受けているためである。したがって本研究では、祖父母、親、子の3世代に着目し、親子間の支援と格差の連鎖について総合的な考察を試みる。

3. 研究の方法

本研究では、大規模社会調査データの計量分析によって上記の問いを検証した。分析に使用したデータは主に次の2つである。第1に、東京大学社会科学研究所が2007年より毎年実施しているパネル調査「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査」(東大社研パネル調査プロジェクトの若年パネル調査および壮年パネル調査:以下JLPSと記す)のデータである。調査対象者は2006年12月末日時点で20~40歳の男女である(2011年からの追加サンプルは2010年12月末日時点で25~45歳の男女、2019年からのリフレッシュサンプルは2018年12月末日時点で20~31歳の男女が対象)。同調査には、回答者と父母との関わり、回答者と子どもとの関わりについての質問項目が毎年豊富に含まれている。

第2に、東京大学社会科学研究所が2019~2020年に60~69歳の男女を対象に実施した「親子関係についての人生振り返り調査」のデータである。同調査も、回答者と父母との関係と、回答者と子どもとの関係について、15歳時から調査時まで回顧的に尋ねている点が特徴である。

4. 研究成果

(1) 親世代が子世代に及ぼす影響

まず、親と子の2世代の間での支援の授受が、子のライフイベントの経験の機会に影響を及ぼすかどうかを検討した。使用したデータはJLPSのWave11~15(2017~2021年)のデータであり、40歳以下のケースを分析対象とした。回答者を子世代として、親からの経済的/非経済的支援の有無と、親への経済的/非経済的支援の有無が、回答者の離家、結婚、第1子出生の経験に及ぼす影響を分析した。

親からの支援については、「この1年間にあなたは、あなたのご両親、配偶者(あなたの夫または妻)のご両親から支援を受けたり、次のようなものを受け取ったりしたことがありますか」という質問項目のうち、「日常の家事」「子どもの世話」を非経済的支援、「仕送りなどの経済的支援」「子どもの教育資金」「住宅資金」を経済的支援と定義した。

親への支援については、「この1年間にあなたは、あなたのご両親、配偶者(あなたの夫または妻)のご両親を支援したり、次のようなことをしたことがありますか」という質問項目のうち、「日常の家事」「買い物の手伝い」「病気のときの世話」「通院の付き添い」を非経済的支援、「仕送りなどの経済的支援」「入院・老人ホームなどの入所費用の援助」「家の建て替え・改修などの資金援助」を経済的支援と定義した。

離家、結婚、第1子出生のライフイベントの変数については、それぞれのライフイベントをt-1期に未経験かつt期に経験している場合、t期にイベント発生(=1)とし、t-1期もt期もイベント未経験の場合はイベント未発生(=0)と定義した。

データはロングデータ形式に変換し、各ライフイベントの経験の有無を従属変数としてポールドロジットモデルを行った。標準誤差はクラスターロバスト標準誤差を用いた。分析の結果、

第1に、親からの経済的支援は男性の結婚イベントに正の影響を及ぼし、親への経済的支援は男女ともに結婚イベントに負の影響を及ぼすことが明らかとなった。経済的なゆとりのなさは結婚の障壁となることが知られているが、親からの経済的支援は負担を軽減させるのに対し、親への経済的支援は負担を増大させていることがうかがえる。

第2に、親からの非経済的支援は、離家、結婚、第1子出生に正の影響を及ぼし、親への非経済的支援は離家に負の影響を及ぼすことが示された。祖父母に孫の世話を頼める環境にあることは第1子の出生を促すこと、また、親の身の回りの世話をする必要があると、同居のニーズが高いため離家の確率は下がることが明らかになった。

これらのことから、「親から支援を受けられるか否か」「親に支援をしているか否か」という親子関係のあり方によって、子のライフイベントの経験の機会に格差が存在することが明らかになった。

(2) 祖父母世代が子世代に及ぼす影響

次に、祖父母が孫に及ぼす影響のうち、親世代を経由した間接的な影響について分析を行った。祖父母からの経済的／非経済的支援の有無と、祖父母への経済的支援／非経済的支援の有無によって、親から子への経済的支援／非経済的支援の多寡が異なるかどうかを、JLPSのWave11～15(2017～2021年)によって検証した。

回答者を親世代として、祖父母からの支援と祖父母への支援は(1)での親からの支援、親への支援と同じ質問項目を用いた。回答者から子への支援は、調査時までの1年間に回答者が子どもの授業料、塾・予備校、おけいこ事などの教育費にかけた総額を経済的支援、1ヶ月あたりの子どもと遊ぶ頻度を非経済的支援とした。分析手法はプールドOLSを採用し、クラスターロバスト標準誤差を用いた。

分析の結果、次の3点が明らかになった。第1に、祖父母から親に対して経済的支援があると、翌年に親は子どもにより多額の教育投資をする傾向にある。第2に、この傾向は、親の世帯収入が高いほど顕著である。第3に、親が祖父母に経済的あるいは非経済的支援を行うことは、親から子どもへの支援に影響を及ぼさない。

これらのことから、子世代は、祖父母世代から親世代への支援を通して、祖父母世代から間接的に影響を受けていることが明らかになった。祖父母への支援が子どもへの支援を抑制するというようなネガティブな影響はみられず、むしろ祖父母からの支援によって、子どもへより多くの支援が可能となるというポジティブな影響がある。しかし、低収入層では、祖父母からのポジティブな影響はわずかであり、祖父母からの経済的支援は、親を経由して子世代の教育機会の格差を助長することが示唆された。

(3) 残された課題と今後の展望

最後に本研究における残された課題と今後の展望について述べる。第1に、本研究では、祖父母世代が子世代へ及ぼす影響として、親世代への支援を通じた間接的な影響を明らかにしたものの、直接的な影響についてはデータの制約から検討できていない。長寿化によって祖父母と孫が共に過ごす時間がかつてより長引いていることをふまえると、祖父母と孫が直接的に関与・接触することで孫に及ぼす影響も考慮する必要がある。

第2に、(2)の分析では、祖父母への支援は、親から子への支援を阻害しないという結果が得られた。しかし、分析で用いたデータでは、回答者(親世代)の年齢は最大でも55歳であったことから、この点については祖父母への支援(介護や生活費の援助など)が本格化する年齢層を含めた分析によって再検討する余地がある。

今後はこれらの分析に対応可能なデータの収集とより精緻な分析によって、三世代での不平等の再生産のメカニズムについて考察する。

引用文献

- Ferraro, K. F. and T. P. Shippee, 2009, "Aging and Cumulative Inequality: How Does Inequality Get under the Skin?" *Gerontologist*, 49(3): 333-343.
- Gilligan, M., A. Karraker and A. Jasper, 2018, "Linked Lives and Cumulative Inequality: A Multigenerational Family Life Course Framework," *Journal of Family Theory & Review*, 10: 111-125.
- 石田浩編, 2017, 『格差の連鎖と若者1 教育とキャリア』勁草書房.
- Swartz, T. T., 2008, "Family capital and the invisible transfer of privilege: Intergenerational support and social class in early adulthood," *New Directions for Child and Adolescent Development*, 119: 11-24.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 保野美咲	4. 巻 4
2. 論文標題 現代日本の親と同居する中年無配偶者の実態 経済状況・親子関係の時代変化に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 稲葉昭英・佐々木尚之編『第4回全国家族調査（NFRJ18）第2次報告書 第4巻 ライフコースの変容』	6. 最初と最後の頁 41-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石田浩・石田賢示・大久保将貴・保野美咲	4. 巻 769
2. 論文標題 「働き方とライフスタイルの変化に関する全国調査（JLPS）2020」と「2020ウェブ特別調査」からわかる コロナ禍の生活・意識と離家（後編）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中央調査報	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 苔米地なつ帆・保野美咲	4. 巻 -
2. 論文標題 性にかんする経験やイメージと家庭環境のかかわり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 林雄亮・石川由香里・加藤秀一編『若者の性の現在地 青少年の性行動全国調査と複合的アプローチから考える』勁草書房	6. 最初と最後の頁 45-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Misaki Matano
2. 発表標題 The Effects of Parental Death on Mental Health in Japan
3. 学会等名 2021 International Conference on Youth in Transition in East Asia（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 保野美咲
2. 発表標題 親からの支援が及ぼす若者の離家・再同居への影響 東大社研パネル調査（JLPS）データの分析（7）
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 保野美咲・石田浩
2. 発表標題 東大社研パネル調査のこれまでの蓄積と今後の展開
3. 学会等名 東大社研パネルシンポジウム2022
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------